

項目	経営	本年度の重点	具体的な方策	職員評価 成果				分析結果	改善策	学校関係者 [ A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない ]		学校の見解と今後の方向性
				A	B	C	D			評価	コメント	
主体的な学びの推進	分かる、楽しい、意欲のわく授業づくり	授業を改善し、主体性に学びに向かう力を引き出す	「わくわく、かかわり、くふう、さいごまで」をもとに授業改善をかかわり、	70.8	29.2	0	0	<p>○教材・ICT・板書の工夫により、児童が身近に感じられる分かりやすい授業づくりができた。</p> <p>○「やってみよう」と思える導入や言葉掛けにより、学習への意欲を高めることができた。</p> <p>○児童の感想や発言から課題・めあてを設定することで、主体的に考える場面を創出した。</p> <p>○ペア・グループ活動や発言のつなぎを行い、児童同士が伝え合い学び合う機会を充実させた。またまとめや振り返りを通して「できた」という実感を促し、達成感につなげることができた。</p> <p>◆意欲や発言が一部の児童に偏る傾向があり、全員が参加し活躍できる仕掛けや手立てが必要である。</p> <p>◆授業後半の集中力維持のため、テンポや時間配分、終盤の構成を再考する必要がある。</p> <p>◆教科書の内容に留まらず、独自の工夫や具体的な支援（例示・ヒント）の事前準備を徹底する。</p> <p>◆基礎基本の反復練習を確保し、学習内容を確実に定着させるための指導を強化する。</p> <p>◆教材研究の継続とともに、学年・学校全体で「工夫の視点」を共有し、指導体制を整える。</p>	<p>・全員参加型の活動（ペア・グループ・全員作業）を取り入れ、「見るだけ」の時間を減らす。</p> <p>・授業後半にミニ活動やまとめの課題を入れ、テンポと時間配分、終盤の山場を意識した構成にする。</p> <p>・指名方法の工夫や役割分担により、児童の発言機会の偏りを防ぐ。</p> <p>・教科書をベースにしつつ、比較・選択・試行錯誤の場面を意図的に設定し、「くふう」する活動を組み込む。</p> <p>・「くふう」の視点や授業例を校内で共有し、共通理解のもとで授業改善を進める。</p> <p>・個別支援として例示・ヒント・段階的課題を事前に準備して授業に臨む。</p> <p>・基礎基本の反復練習の時間を計画的に確保し、定着確認の小テストや振り返りを取り入れる。</p>	<p>A 80%</p> <p>B 20%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>・授業改善への真摯な取り組みが伺えます。「わくわく、かかわり、くふう、さいごまで」という分かりやすい指針のもと、児童が主体的に学ぶ環境づくりに努力されていることを評価します。全員参加型の授業づくりや基礎基本の定着に向けた改善策も具体的で、今後の成果に期待しています。</p> <p>・授業を見させていただいたときには、子ども達から活発に発言があり、先生方の工夫を感じました。</p> <p>・小黒板に、授業の課題を書き、明確に課題を提示している授業が多い。</p> <p>・本気で熱心に取り組んでいるが、授業改善まで意識しているか、よくわからない。</p> <p>・子ども達の興味・関心をどこで先生たちが探知することができるかもポイントになるかと思えます。さきにスタートの部分。その後の取り組みは遂行錯誤を重ねながらアソブメントできるのではないのでしょうか。</p>	<p>「わくわく・かかわり・くふう・さいごまで」を指針として授業改善に取り組み、課題提示の工夫や児童の発言を促す授業づくりを進めていく。今後は全員が参加できる活動や比較・試行錯誤の場面を取り入れるとともに、児童の興味・関心を生かした導入の工夫や基礎基本の定着を意識した学習を進め、校内で実践を共有しながら主体的に学ぶ授業づくりの充実を図っていく。</p>
				33.3	58.3	8.3	0	<p>○他学年や複数教科の授業参観を通し、自分では思いつかない声掛けやアイデアを自身の授業づくりに生かすことができた。</p> <p>○授業観察期間やプラボーカードの活用により、互いの良い実践を認め合い、授業改善への意欲を高めることができた。</p> <p>○研究授業のねらいや手立てを共有した上で参観・協議を行い、児童の姿を根拠とした具体的な改善案を検討できた。</p> <p>○若手からベテランまで学年を越えて意見を出し合い、学校全体で授業づくりの視点をそろえることができた。</p> <p>◆業務の都合で空き時間の確保が難しく、時期によって参観が消極的になるため、計画的な時間確保や可視化が必要である。</p> <p>◆参観する学年や教科に偏りが見られるため、学校全体で均等に学び合える仕組みづくりが求められる。</p> <p>◆協議が印象や感想に寄らないよう、観点の整理や記録様式の統一など、事実に基づく協議を徹底する必要がある。</p> <p>◆発言者が固定化しないよう、全員が参加しやすい協議形式の工夫や、研究に対する理解を深める場が必要である。</p> <p>◆授業の見合いや改善案の提示が単発で終わらないよう、実践と再検証を繰り返すサイクルを定着させる必要がある。</p>	<p>・授業参観用の共通時間帯を設定し、学期ごとに計画的に参観機会を確保する。</p> <p>・参観可能な時間を一覧化し、職員間で共有する。</p> <p>・学年・フロア・教科が偏らないよう、参観ローテーションを組む。</p> <p>・学校全体で均等に学び合える参観計画を立てる。</p> <p>・研究授業のねらいや見方を事前に共有し、理解を深める機会を設ける。</p> <p>・参観の観点を整理し、記録様式を統一して事実に基づく協議を徹底する。</p> <p>・全員が発言しやすい協議形式（少人数協議・順番発言等）を取り入れる。</p> <p>・良い実践の中から各自が取り入れるポイントを明確にして実践する。</p> <p>・参観→改善→再検証のサイクルを校内で継続的に回す仕組みを作る。</p>	<p>A 40%</p> <p>B 60%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>教職員間で学び合う姿勢は素晴らしいですが、成果評価が33.3%と低い点になります。業務多忙の中でも授業改善に取り組む姿勢は評価できますが、参観機会の計画的な確保や協議の質の向上に向けた改善策の実行を期待します。PDCAサイクルを活用し、実施後の反省や気づきを次の研究授業のねらいや見方の共有に繋げるような運用をお願いします。</p> <p>・先生達が忙しい中、お互いに学び合い高め合う時間を確保するのは難しい事だと思いますが、大切な事だと思います。実際に参観してみることにする気付きもあると思います。プラボーカードの工夫素敵です。</p> <p>・若い先生方が多くなり、学びあひながら、指導力をつけて欲しい。</p>	<p>教職員が互いの授業を参観し学び合う取組を進めており、多忙中でも授業改善に取り組んでいる。一方で、参観機会の計画的な確保や協議の質の向上が課題である。今後は、時間設定や参観ローテーションの工夫、観点や記録様式の共有を進めるとともに、研究授業のねらいを事前に共有し、参観→改善→再検証のPDCAサイクルを継続的に回しながら授業力向上を図っていく。</p>
				37.5	41.7	16.7	4.1	<p>○外部講師や地域の方（藍染、和太鼓、イラスト、行政等）を招いた専門的な実演・体験により、児童の学習意欲や実感を伴う理解が大きく高まった。</p> <p>○地域の方の話を聞く機会を通して、国語や社会など複数教科と関連付けた横断的な授業を展開することができた。</p> <p>○体験をきっかけに児童の興味・関心が広がり、探究的な問いや発展学習へとつなげることができた。</p> <p>○地域・保護者・団体との連携により、学びの場を学校外へ広げることができた。</p> <p>○学年全体で外部講師を活用する計画を立てることで、学級単体では困難な活動も円滑に実施することができた。</p> <p>◆体験が「楽しかった」で終わらないよう、事前の課題設定や事後の言語化・まとめといった振り返りの時間をさらに充実させる必要がある。</p> <p>◆社会科をはじめ、外部講師の活用を十分に広げられていない教科への導入を検討する必要がある。</p> <p>◆講師との打合せを密にし、授業のねらい・流れ・評価の観点を事前に共有することで、指導の質をそろえる必要がある。</p> <p>◆安全確保や時間配分、準備物の調整を円滑にするため、当日の動線や役割分担の計画を事前に整えることが求められる。</p> <p>◆体験後の調べ学習や発表の場など、後続の学習計画（受け皿）をあらかじめ設定し、学びを深める必要がある。</p> <p>◆活動のノウハウを次年度へ確実に引き継ぐため、データ共有だけでなく、年度当初に直接共有する場を設けることが望ましい。</p>	<p>・体験学習の前に課題を設定し、事後に振り返りやまとめを必ず行う。</p> <p>・社会科等で外部講師の活用計画を立て、計画的に授業に位置付ける。</p> <p>・学校運営協議会等と連携し、年間計画に応じた外部講師の計画を立てる。</p> <p>・安全面、時間配分、準備物について役割分担表と当日の動線計画を作成する。</p> <p>・体験後の発展学習（調べ学習、選択課題、発表活動等）をあらかじめ単元計画に組み込む。</p> <p>・学年ごとの取組について、年度当初に対面での引継ぎ・共有の時間を設定する。</p>	<p>A 80%</p> <p>B 20%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>・地域の方々や外部講師を積極的に活用し、児童に多様な学びの機会を提供している点を高く評価します。藍染や和太鼓など、地域の特色を生かした取り組みは素晴らしいです。今後は社会科等への展開や、学びの継続性を意識した計画づくりに期待します。地域との繋がりについては自治会として積極的に協力したいと思います。</p> <p>・社会科、音楽、国語、総合的な時間の授業でゲストティーチャーによる授業があったとお聞きしました。来年度も継続予定とのこと、ぜひ子ども達に直接体験してほしいと思います。</p> <p>・ゲストティーチャーを招聘して授業、子供たちにとっては、興味をもち、意欲的に取り組めたとと思う。</p> <p>・地域の人が授業協力できたら、更に良いと思う。</p>	<p>地域の方々や外部講師を活用し、和太鼓など地域の特色を生かした体験的な学習を実施することで、児童に多様な学びの機会を提供している点が評価されている。ゲストティーチャーによる授業は児童の興味・関心や学習意欲の向上にもつなげられている。今後は、体験学習の前後に課題設定や振り返り位置付け、社会科等の教科や発展学習につなげるとともに、学校運営協議会や地域と連携しながら外部講師の年間計画を整え、安全面や役割分担を明確にした体制づくりを進め、学びの継続性を高めたい。</p>
				50	50	0	0	<p>○全学年で電子黒板やタブレット、デジタル教科書を日常的に活用し、視覚的に分かりやすい授業が定着した。</p> <p>○拡大・色分け・動画・音声などの機能を効果的に使い、児童の理解を深めることができた。</p> <p>○児童の考えや資料を即時共有・投影することで、考え方の比較や学び合いが活性化した。</p> <p>○デジタルとアナログ（板書）を適切に組み合わせ、教材準備の効率化と授業の質向上を両立させた。</p> <p>◆機器の起動・接続やWi-Fi環境の不具合が授業進行に影響するため、専科教室を含めた環境整備が必要である。</p> <p>◆スライド作成や教材準備、データ整理に時間を要するため、業務とのバランスや効率的な準備方法の検討が求められる。</p> <p>◆操作に不慣れな児童・教員へのフォローや、基本操作を習熟するための研修・共有の場を充実させる必要がある。</p> <p>◆提示や視聴が目的化しないよう、全員が主体的にICTを活用できる場面の精査や手立てが必要である。</p>	<p>・スライドや教材のテンプレートを共有し、資料の作成時間の短縮を図る。</p> <p>・よく使う教材やデータは共有フォルダで管理し、再利用できる体制を整える。</p> <p>・授業前に電子黒板・接続・Wi-Fiの動作確認を行うチェック手順を決め全体に周知する。</p> <p>・専科教室を含めたICT機器の配置や通信環境の点検・整備を計画的に進める。</p> <p>・提示や操作に時間がかからないよう、データ整理や画面構成を事前に準備する。</p> <p>・児童・教員向けに基本操作のミニ研修や操作手順の共有資料を作成する。</p> <p>・ICTは「考えを共有するための手段」と位置付け、全員が参加できる活動場面を意図的に設定する。</p>	<p>A 60%</p> <p>B 40%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>・ICT機器の日常的な活用が定着していることは評価できます。ただし、通信環境の不安定さや操作スキルの個人差など、課題も明確です。専科教室を含めた環境整備や、教職員・児童への研修充実を進めていただきたいです。</p> <p>・授業を見させていただいたときに漢字の書き順などが電子黒板で視覚的に学習することができ、分かりやすかったです。現代の子ども達には、デジタル教材を有効に利用しながらも実際に手を動かして書くという経験も大切かと思えます。</p> <p>・デジタル教科書、電子黒板を使いこなし、授業の中で生かされている。</p> <p>・低学年から高学年まで、子供たちはタブレットを使いこなしている。先生方のご指導の成果であると思う。</p>	<p>電子黒板やデジタル教科書、タブレット端末などICT機器の日常的な活用が進み、児童が視覚的に理解を深めたり主体的に学習に取り組んだりする授業が行われている点が評価されている。児童が低学年からICT機器を使いこなしていることは教職員の指導の成果である。一方で、通信環境の不安定さや操作スキルの個人差などの課題もあることから、専科教室を含めたICT環境の点検・整備を進めるとともに、教材やデータの共有、操作研修の実施などを通して活用の充実を図り、ICTを考えを共有するための有効な学習手段として活用していく。</p>

			一人一台端末を活用した学習法を取り入れる	41.7	45.8	12.5	0	<p>○タブレットのルール指導を徹底し、低学年を含めミライシード等のドリルや活用ツールが学習に定着した。</p> <p>○スライド作成や調べ学習、作品の撮影・鑑賞を通し、デジタルならではの表現や情報の収集・活用能力が高まった。</p> <p>○意見共有ツールの活用により全員の考えを可視化し、個別最適な学びや児童同士の深い学び合いにつなげることができた。</p> <p>○端末を用いた振り返りの記録により、学習の積み重ねの可視化や自己評価の向上を図ることができた。</p> <p>○教員自身も端末活用スキルの向上に努め、授業内での効果的な提示や支援に役立てることができた。</p> <p>◆学年や児童によって操作スキルや活用水準に差があるため、学年目標の明確化や入力支援（音声入力・型提示）の工夫が必要である。</p> <p>◆通信環境の不安定さが授業進行に影響する場合があるため、オフライン時の対応や環境改善が求められる。</p> <p>◆端末活用がドリルや調べ学習に偏りがちなため、対話的な学びを損なわない授業設計や、多様な実践例の共有が必要である。</p> <p>◆ネット情報の真偽を見極める力の育成や、出典を確認して複数の資料で確かめる学習を定着させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに端末活用の目標と到達水準を設定し、年間計画に位置付ける。</li> <li>・通信環境の不具合に備え、代替案（オフライン教材・紙資料等）を事前に準備する。</li> <li>・教科の特性に応じて、端末を使う場面と使わない場面を意図的に設計する。</li> <li>・ミライシードの進捗や学習状況を定期的に確認し、指導に生かす仕組みを作る。</li> <li>・スキル習得で終わらず、単元内で「活用する場面」を必ず設定する。</li> <li>・デジタル作品づくりや発表活動を取り入れ、表現活動への活用を広げる。</li> <li>・出典の明記や複数資料での確認を指導に組み込み、情報の信頼性を確かめる学習を定着させる。</li> <li>・入力が苦手な児童にも参加しやすいよう、テンプレートや音声入力等を活用する。</li> <li>・振り返りの問いを工夫し、考えの変化や学びの理由を書かせるようにする。</li> <li>・調べ学習やミライシードに偏らないよう、実践例を共有し計画的に授業準備を行う。</li> </ul>	<p>A 40%</p> <p>B 60%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット活用が学習に定着しつつある点は評価します。一方で、学年による活用水準の差や、ドリル中心の活用に偏る傾向が課題です。情報リテラシー教育の充実と、対話的な学びとのバランスを取った活用を期待します。</li> <li>・調べ学習や電子ドリルなどに有効に活用できたとの話がありました。現代の子ども達には必要なスキルだとも思いますが、特に低学年においては使用時間は短めにし対話的な学びの経験を多くとるべきではないか、と思います。</li> <li>・授業の中で活用されていると思う。</li> </ul>	<p>タブレット端末の活用が学習の中で定着し、調べ学習や電子ドリルなどに活用されている点が評価されている。一方で、学年による活用水準の差やドリル中心の活用に偏る傾向が課題である。今後は、教科の特性に応じて活用場面を計画的に設計する。また、情報の信頼性を確かめる学習や表現活動への活用を進めるとともに、低学年では対話的な学びとのバランスにも配慮し、ICTを効果的に活用した学習の充実を図っていく。</p>
豊かな心の育成	個性ある子供たちが共に安心して学ぶことができる環境づくり	自己肯定感を育み他者と協働する力を育成する	教師が子供のよさを褒め、価値づける言葉	75	25	0	0	<p>○児童の努力や過程を逃さず、肯定的な声かけや即時の称賛を継続することで、学習意欲と自己肯定感を高めることができた。</p> <p>○授業や作品作りを通して全員と丁寧に関わり、工夫点を価値付けることで、学級全体に温かい雰囲気生まれた。</p> <p>○「よいところ見つけ」カードや鑑賞活動を活用し、友達同士で良さを認め合う機会を可視化・充実させることができた。</p> <p>○認め合いの積み重ねにより、互いに協力し合える安心感のある学級づくりや、相互承認の意識向上につながった。</p> <p>◆結果だけでなく、具体的な行動や思考の過程を言語化して褒めるなど、個に応じた質の高いフォローを継続する必要がある。</p> <p>◆称賛の対象が一部の児童に偏らないよう、全員の小さな成長や変化を見逃さない多角的な視点が必要。</p> <p>◆友達同士の称賛が形式的・表面的にならないよう、具体的な観点や例示を示して、認め合いの質を高める工夫が必要である。</p> <p>◆発言や活動への参加が固定化しないよう、役割分担や小集団での活動を取り入れ、全員が活躍できる場を設計する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の努力や思考の過程を捉え、即時に具体的な言葉で称賛する取組を行う。</li> <li>・一人一人の工夫やよさを価値付ける関わりを意図的に行う。</li> <li>・よいところ見つけや鑑賞活動を活用し、互いの良さを認め合う機会を設定する。</li> <li>・結果だけでなく過程を言語化して伝えるなど、個に応じた質の高い称賛を継続して行う。</li> <li>・称賛や活躍の機会が偏らないよう、全員の小さな成長を多角的に見取る取組を行う。</li> <li>・認め合いが形式的にならないよう、観点や例示を基に理由まで伝え合わせる指導を行う。</li> <li>・役割分担や小集団活動を取り入れ、参加や発言が固定化しない場の設定を行う。</li> </ul>	<p>A 100%</p> <p>B 0%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が児童一人一人の良さを認め、価値づける取組は素晴らしいです。成果評価75%は高く評価できます。今後も、全ての児童が認められる機会の公平性を保ちながら、質の高い称賛を継続していただきたいです。</li> <li>・「よいところ見つけカード」素敵だと思います。学習のみでなく色々な場面で肯定する機会を見つけてあげ、子ども達の幸せな人生に繋げていってあげてほしいと思います。</li> <li>・一日一回は、褒められたり、認められたり、先生から声をかけてもらったり、全員の子が味わうことができたから素晴らしいと思う。特に叱られることが多い子、目立たない子、にはうれしいと思う。</li> <li>・プロセスに重点を置いた取組は素晴らしいと思います。</li> </ul>	<p>本校では、児童一人一人の努力や思考の過程に着目し、具体的な言葉で称賛し価値付ける取組を進めており、成果評価75%と高く評価されている。またよいところ見つけカードや鑑賞活動などを通して互いの良さを認め合う機会を設けている。今後は、活躍の機会が偏らないよう全員の小さな成長を多面的に見取り、理由まで伝える指導や小集団活動などを通して、互いに認め合う学級づくりを一層充実させていく。</p>
		活動仲間が互いを認め合いよいところを見つけ合う	活動仲間が互いを認め合いよいところを見つけ合う	41.7	58.3	0	0	<p>○「よいところ見つけ」カードや振り返り交流を通し、友達の良さを肯定的に受け止め、認め合う雰囲気を醸成できた。</p> <p>○鑑賞活動や発表の場で互いの工夫を伝え合うことで、相手への理解が深まり、学級全体の協力意識や安心感を高めることができた。</p> <p>○小集団での活動や道徳・思いやり習慣と関連付けた取組により、全員が認められる経験を積み重ね、自尊感情の向上につながった。</p> <p>○計画的に認め合いの場を設けることで、児童の情緒が安定し、日常生活における落ち着いた行動や協力的な態度を引き出すことができた。</p> <p>◆友達の認め方が外見や得意不得意に偏りやすいため、具体的な観点を示し、努力や過程を多面的に見取らせる工夫が必要である。</p> <p>◆「すごい」等の短い言葉に留まらず、良さを具体的に伝える表現力の育成や、活動を日常の行動と結び付けて継続させる手立てが必要である。</p> <p>◆発言や交流が一部の児童に偏らないよう、役割設定や活動のパリエーションを工夫し、全員が主体的に参加できる場を保障する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードやワークシートを活用し、見た目や得意不得意に偏らない評価と認め方を意識した支援を行う。</li> <li>・「どの行動が、どのようによかったのか」を具体的に伝える表現例を示し、言葉で説明する力の育成を図る。</li> <li>・児童の発言が短く終わらないよう、問い返しや補足発問を工夫し、表現を具体化する指導を継続する。</li> <li>・司会、記録、発表などの役割を設定し、全ての児童が活動に参加し、意見を表出できる場面を意図的に設ける。</li> <li>・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、発言しやすい学習形態を工夫することで参加の機会を保障する。</li> <li>・学校生活の中で振り返る時間を設定し、活動が形式的にならないよう指導内容の定着を図る。</li> <li>・定期的に振り返りの機会を設け、継続的に認め合う態度の育成に取り組む。</li> <li>・児童会活動や学級活動の活動方法に工夫を加え、児童の実態に応じた多様な方法で認め合い活動を実施する。</li> <li>・学年や学級の実態に応じて活動の形式や進め方を見直し、より効果的な指導となるよう改善を図る。</li> </ul>	<p>A 80%</p> <p>B 20%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よいところ見つけ」など、互いを認め合う活動は重要です。ただし、成果評価41.7%と低く、形式的にならないよう具体的な観点を示す工夫が必要です。なぜ相手の意見を聞き、認め合うことが必要かの目的（互いの意見を話し合うことで自分では気が付かない視点や気づきが生まれ議論の幅が広がる）をしっかり認識することが重要だと思います。</li> <li>・人の良いところを見つけ、互いに認め合う事が出来る人間関係を築いていってほしいと思います。良さを具体的に伝えていくことを先生たちが意識して教えてくださることはありがたい事だと思います。</li> <li>・学級の中で授業の中で認め合う姿をたくさん見たい。</li> <li>・認める行動の前に認められる体験が必要だと思っています。先生たちが日常的に子供たちを認めてあげることが様々な取組につながっていると思いました。</li> </ul>	<p>本校では、「よいところ見つけ」など互いを認め合う活動を通して望ましい人間関係づくりを進めているが、成果評価が41.7%と低いことから、活動が形式的にならないよう改善が必要である。今後は、振り返りカード等を活用し行動のよさを具体的に言葉で伝える指導を行うとともに、問い返しや話し合い活動を通して意見を具体化する力を育成する。また、役割分担やペア・グループ活動を取り入れ全員が参加できる場面を設けるとともに、定期的な振り返りを通して互いに認め合う態度の定着を図っていく。</p>
		励行等で挨拶の大切さを話し合い、日常的に挨拶を	励行等で挨拶の大切さを話し合い、日常的に挨拶を	50	41.7	8.3	0	<p>○教職員の率先した実践や挨拶運動により、児童自ら挨拶する姿が増え、学校全体の雰囲気が明るくなった。</p> <p>○道徳・学活での意味付けや、シール等の視覚的な評価を活用することで、挨拶への意識と日常的な習慣化が進んだ。</p> <p>○声の大きさや態度を意識させた継続的な指導により、挨拶を通した良好な人間関係づくりにつながることができた。</p> <p>◆自分から挨拶することに抵抗がある児童や、場面によって差が出る児童がいるため、理解を具体的な行動へ結び付ける手立てが必要である。</p> <p>◆形式的な挨拶に留まらず、相手の目を見るなど「気持ちを込める」大切さを伝え、指導の質を高める必要がある。</p> <p>◆教員自身の意識や実践の差を埋めるとともに、家庭とも連携して重点場面を設定するなど、学校全体で継続的に取り組む体制が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の意味や大切さを繰り返し確認し、できた場面を具体的に取り上げて行動化を促す。</li> <li>・登校時、校内、校外など場面ごとに重点目標を設定し、指導の視点をそろえる。</li> <li>・相手の目を見る、立ち止まるなど、気持ちが伝わる挨拶のポイントを具体的に指導する。</li> <li>・できていない児童だけでなく、少しでも成長が見られた児童を認める仕組みを取り入れる。</li> <li>・教員間で挨拶の在り方を確認し、教員自身が手本となる挨拶を継続する。</li> <li>・家庭と連携し、重点場面を共有して継続的に取り組む体制を整える。</li> </ul>	<p>A 80%</p> <p>B 20%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でも児童の挨拶が増えてきたと感じています。教職員の率先した実践は素晴らしいです。ただし、場面による差や形式的な挨拶に留まる課題があります。大人が模範となるように積極的に挨拶を励行し、家庭・地域と連携し、「気持ちを込めた挨拶」の定着を共に進めたいと思います。</li> <li>・校長先生のお話の中にも度々挨拶のお話があり、学校をあげて大切に取り組んでいる様子が伺えます。通りすがりの子ども達の明るい笑顔がいつも心に残ります。</li> <li>・挨拶する子が多いと感じている。</li> </ul>	<p>本校では、挨拶を大切にする取組を継続しており、地域からも挨拶をする児童が増えてきたとの評価をいただいている。教職員が率先して挨拶を行い、学校全体で取り組んでいる点も評価されている。一方で、場面による差や形式的な挨拶にとどまる課題もあることから、挨拶の意味や大切さを繰り返し指導するとともに、相手の目を見る、立ち止まるなど気持ちが伝わる挨拶の仕方を具体的に示していく。今後は、家庭や地域とも連携しながら、気持ちを込めた挨拶の定着を図っていく。</p>

			学習内容を 行う	33.3	45.8	12.5	8.3	<p>○行事や音楽会、共同活動を通して児童同士が関わり合い、相手の良さや違いを認め合う、壁のない関係づくりができた。</p> <p>○わかくさ学級の児童が役割を持って参加し、成功体験を得ることで、自信や自己肯定感の向上につながることができた。</p> <p>○学習内容に応じた交流の形の工夫や、事後の振り返りを行うことで、互いに学び合う温かい雰囲気を醸成できた。</p> <p>○専門教員との連携により、安心して参加できる環境を整え、意欲的な交流学習を展開することができた。</p> <p>◆行事中心の交流に偏りがちなため、算数等の教科指導における少人数交流や、年間を通した継続的な計画立案が必要である。</p> <p>◆学年によって実施状況や意識に差があるため、交流のねらいや目指す姿を学校全体で共通理解し、体制を整える必要がある。</p> <p>◆事前の打ち合わせや情報共有の時間を十分に確保し、授業の流れや評価の観点を担当間で揃えることが求められる。</p> <p>◆関わり方に戸惑う児童への役割提示や、活動内容の段階化・選択課題の準備など、個に応じたきめ細かな支援が必要である。</p> <p>◆学習活動に入る前に、レクリエーションや給食交流等を通した「関係づくり」の機会を意識的に設ける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの取組状況を共有し、学校全体で交流の共通理解を図る。</li> <li>・行事だけでなく、授業の中にも計画的に交流の場を位置付ける。</li> <li>・算数等で少人数交流ができるよう、時間割や人員配置の調整を行う。</li> <li>・交流のねらいと目指す姿を事前に確認し、指導の視点をそろえる。</li> <li>・事前の打ち合わせや情報共有の時間を確保し、準備を計画的に進める。</li> <li>・児童が関わりやすいよう、役割分担や声かけ例を示して支援する。</li> <li>・活動量や課題の難易度に差が出ないように、段階的課題や選択課題を用意する。</li> <li>・単発で終わらないよう、年間計画に位置付けて継続的に実施する。</li> <li>・学習前にレクリエーションや給食交流等を取り入れ、関係づくりの機会を設ける。</li> <li>・学年や担当者に左右されないよう、毎年の交流計画を作成し、全体で共有する。</li> </ul>	<p>A 60%</p> <p>B 40%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の観点から重要な取り組みです。行事を通じた交流は評価できますが、成果評価33.3%は低いです。教科学習での継続的な交流や、年間計画への位置づけなど、組織的な取り組みの強化を期待します。</li> <li>・音楽会にご招待いただき、わかくさ学級のお子さんと一緒に頑張っている様子が見られました。無理はなくですが大きな自信に繋がると感じました。保護者の方からも喜びの声が聞こえました。</li> </ul>	<p>行事を中心に交流及び共同学習を進め、音楽会などではわかくさ学級の児童も共に活動する姿が見られ、児童の自信や保護者の理解につながっている。今後は行事だけでなく教科学習にも交流の場を計画的に位置づけ、学年の取組を共有しながら年間計画に基づいた継続的な実施を進める。役割分担や課題設定を工夫し、児童が関わりやすい環境を整え、組織的な交流の充実を図っていく。</p>
			を中 国校 や保 育園 ・幼 稚園 との 訪問 や交 流等 を通 して 連 携 強 化	12.5	58.3	29.2	0	<p>○中学校進学を意識した学習・生活指導を日常的に行い、年度当初からの計画的な連絡体制によりスムーズな連携の土台を築けた。</p> <p>○電話や文書、小中一貫教育の機会を通じ、個別の引き継ぎ事項や他校種の指導視点を共有し、多角的な児童理解につながれた。</p> <p>○小規模な交流から始めるなど、次年度以降の継続的な連携に向けた見通しをもつことができた。</p> <p>◆交流や連携が特定の学年や担当者に依存しがちなため、年間計画への位置付けや共有方法の統一により、学校全体の組織的な取組とする必要がある。</p> <p>◆対面での交流回数に限られる中、時間調整や移動の負担を考慮し、オンライン活用などの代替手段を含めた柔軟な連携方法を検討する必要がある。</p> <p>◆交流のねらいや引き継ぐべき事項をより明確にし、特定校との継続的かつ実効性のある連携体制を構築することが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの交流・連携の実施状況を共有し、未実施学年への支援体制を整える。</li> <li>・訪問や交流を年間計画に位置付け、計画的・継続的に実施する。</li> <li>・担当者に依存しないよう、記録様式や共有方法を統一する。</li> <li>・交流のねらいと学ぶ内容、引き継ぐ事項を事前に明確にする。</li> <li>・時間調整や移動、安全面の負担軽減のため、オンライン交流等の方法も併用する。</li> <li>・特定校との継続的な連携について、年度単位での計画を立てて体制を整える。</li> </ul>	<p>A 20%</p> <p>B 60%</p> <p>C 20%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価12.5%は非常に低く、改善が必要です。小中一貫教育や幼保小連携は地域全体の教育力向上に不可欠です。年間計画への位置づけや、オンライン活用など柔軟な連携方法の検討を強く期待します。</li> <li>・保育園との連携は訪問を受け入れていただき、子ども達と直接交流していただきました。小1の壁を少しでも取り除くことができれば良いと思います。スタートカリキュラムも幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識したものを計画して下さっていました。</li> <li>・若草小に行かせていただき、子供たちは本当に喜んでいました。今後とも交流の機会をもちたいと思いますので、よろしく願っています。</li> </ul>	<p>学校では、保育園との訪問交流やスタートカリキュラムの実施などを通して幼保小の接続を意識した取組を進めており、児童が喜んで参加する姿も見られた。一方で学年による実施状況の差が課題である。今後は交流や訪問を年間計画に位置付け、学年間で取組状況を共有するとともに、記録様式の統一やオンライン交流の活用などにより継続的な連携体制を整え、地域と連携した教育活動の充実を図っていく。</p>
特色ある教育活動の充実	多様で豊かな学びの場の創出	体力の向上と豊かな情操を育む取組を	図る	50	45.8	4.2	0	<p>○マラソン・なわとびカードや3分間走に全校で継続して取り組み、運動への意欲と日常的な運動習慣を高めることができた。</p> <p>○個人のめあて設定と記録の振り返りを通して、自己ベスト更新に向けて粘り強く挑戦する児童の姿が増えた。</p> <p>○体育週間での大縄とびや励まし合いを通し、協力して努力する大切さを学び、学級全体の活動量向上につながれた。</p> <p>○教職員が積極的に関わり、達成感を共有する称賛の手立てを講じることで、運動に対する肯定的な意識を支えた。</p> <p>◆運動の得意不得意による差が大きいため、段階的な目標設定や、他者比較ではなく自身の成長を評価する声かけを徹底する必要がある。</p> <p>◆振り返りが形式的にならないよう、具体的な姿勢やペース配分等の改善点を示し、体力テストの結果に基づいた次年度への手立てを検討する必要がある。</p> <p>◆疲労や体調への配慮など安全管理を徹底するとともに、単元計画の中に無理のない形で体力向上の取組を位置付ける工夫が求められる。</p> <p>◆短期間の取組に終わらず、体力向上の効果をより明確にしながら、年間を通した計画的な実践を継続する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上を年間計画に位置付け、長期的・継続的に取り組む。</li> <li>・得意不得意に配慮し、段階的な目標設定と自己ベスト更新を軸にした評価を行う。</li> <li>・振り返りでは、姿勢・呼吸・ペースなど具体的な改善点を書かせたり示したりする。</li> <li>・疲労や体調、けがに配慮し、安全管理と個別の運動量調整を徹底する。</li> <li>・競争の結果ではなく、努力や成長を認める声かけを継続する。</li> <li>・体育週間の取組と日常の体育を関連付け、体力向上とのつながりを明確にする。</li> <li>・体育の単元内容に応じた運動を組み合わせ、無理のない形で体力向上を図る。</li> <li>・体力テストの結果を分析し、次年度の指導計画や取組に反映させる。</li> </ul>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な取り組みは評価できます。個人のめあて設定や記録の振り返りは良い取り組みです。運動が苦手な児童への配慮や、年間を通した計画的な実施により、全ての児童の体力向上につながってほしいです。</li> <li>・なわとび、マラソンと計画的な取り組みができたのではないかと。</li> <li>・休み時間に外で元気に遊んでいる子が多い。教室にいる子もいるが。</li> <li>・保護者アンケートで体力向上でCが6%（昨年14%）だいぶ向上しています。</li> </ul>	<p>なわとびやマラソンなどの取組を通して体力向上を図っており、継続的な実践や個人のめあて設定、記録の振り返りなどの取組は評価されている。休み時間に外で元気に遊ぶ児童も多い。今後は、年間計画に位置付けた継続的な取組を進めるとともに、体力テストの結果分析を指導に生かし、運動が苦手な児童にも配慮しながら、努力や成長を認める指導を通して全ての児童の体力向上を図っていく。</p>
		充実させる	し全 校で ポツ チャ をつ くら せる	16.7	62.5	16.7	4.2	<p>○全校でポッチャに取組むことで、学年を超えて協力し合い、誰もが活躍できる温かい雰囲気でスポーツに親しむことができた。</p> <p>○チームで作戦を話し合う活動を通し、対話の重要性やみんなで考える楽しさを味わうことができた。</p> <p>○自立活動等と関連付けて継続的に取組む機会を設けたことで、応援や称え合いの姿勢を育むことができた。</p> <p>◆学年による意識の差を埋めるため、取組の位置付けを明確にし、全校体制で活動のねらいを共有する必要がある。</p> <p>◆投球が一部の児童に偏らないよう役割分担を工夫し、全員の参加を保障するとともに、学びを深める振り返りの充実が求められる。</p> <p>◆勝敗にこだわりすぎず、協力や作戦の工夫といった「過程」を評価する声かけを徹底し、次への改善につなげる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組を年間計画や学年計画に位置付け、全校で共通認識をもって実施する。</li> <li>・活動のねらいを事前に共有し、学びとしての振り返りの時間を確保する。</li> <li>・投球や役割が一部に偏らないよう、役割分担やローテーションを工夫して全員参加を保障する。</li> <li>・作戦が形だけに偏らないよう、振り返りの観点を示し、次の改善につなげる。</li> <li>・勝敗よりも協力や挑戦の過程を評価する声かけを意図的に行う。</li> </ul>	<p>A 25%</p> <p>B 50%</p> <p>C 25%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価16.7%は低いです。誰もが活躍できるスポーツとして良い取り組みですが、学年による意識の差が課題です。年間計画への位置づけや、全校での共通理解を図り、組織的な取り組みとして定着させることを期待します。</li> <li>・ポッチャに全校でどのようにして取り組んだのか。</li> </ul>	<p>誰もが活躍できるスポーツとしてポッチャを取り入れ、協力しながら活動する機会を設けてきたが、学年による取組の差があり、評価は低い結果となった。今後は年間計画や学年計画に位置付け、全校でねらいを共有して実施する。役割分担やローテーションを工夫して全員参加を保障するとともに、振り返りの観点を示し、勝敗だけでなく協力や挑戦の過程を大切に活動として継続的に取り組んでいく。</p>

			ミニ ジック クイ ア ーと 位 置 づ け、 音 楽 に 親 し む 活 動 を 行 う	50	45.8	4.2	0	<p>○音楽会や鑑賞教室に加え、朝・昼の放送や行事に音楽を取り入れることで、日常的に多様な音楽に親しみ感性を育む機会が増えた。</p> <p>○歌唱・器楽・鑑賞など幅広い活動を通して、仲間と協力して一つのものをつくり上げる楽しさや達成感を味わうことができた。</p> <p>○音楽を通じた発表や共有の場を設けることで、学年を超えて互いの良さを認め合う温かい雰囲気づくりにつながった。</p> <p>◆行事的な取組に偏らず、各学年の学習内容と関連付けたねらいの明確化や、主体的に関われる役割・仕掛けの工夫が必要である。</p> <p>◆発表の質を高めるための計画的な練習・振り返り時間を確保するとともに、教職員間の役割分担や教材共有により運営の効率化を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の学習内容と関連付けて位置付け、取組のねらいを明確にする。</li> <li>全員が主体的に関われるよう、役割設定や活動の工夫を行う。</li> <li>発表の質を高めるため、計画的な練習、目標設定、振り返りの時間を確保する。</li> <li>準備や運営の負担軽減のため、役割分担を明確にし、教材や楽曲等の共有化を進める。</li> </ul>	<p>A 75%</p> <p>B 25%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を通じた豊かな情操教育は重要です。音楽会や鑑賞教室は地域も楽しみにしています。行事中心から、日常的な音楽活動への展開や、各学年の学習内容との関連づけにより、さらなる充実を期待します。</li> <li>音楽会に参加させていただき、真剣に歌っている姿に感動した。</li> <li>毎年実施して良いのではないかな。</li> </ul>	<p>学校では、音楽会や鑑賞教室などの取組を通して、音楽に親しみ豊かな情操を育む教育活動を進めている。音楽会では児童が真剣に歌う姿が見られ、来校者からも感動したとの声が寄せられるなど、地域にとっても親しまれる行事となっている。今後は各学年の学習内容と関連付けてねらいを明確にするとともに、役割設定や振り返りを取り入れ、日常の音楽活動の充実につながら継続的な取組を進めていく。</p>
			読書 活動 を 推 進 す る 読 書 活 動 を 推 進 す る 読 書 活 動 を 推 進 す る	33.3	54.2	8.3	4.2	<p>○学校司書や図書ボランティアによる読み聞かせ、季節の環境整備により、児童が日常的に本に親しむ機会が大きく広がった。</p> <p>○学年・単元に応じた本の紹介や調べ学習での司書支援を通して、目的に合った本を探す力や読書意欲を高めることができた。</p> <p>○読書記録やおすすめ本の紹介、図書ボランティアとの連携により、多様な本に触れるとともに読書の広がりを可視化できた。</p> <p>◆学級による取組の差を埋めるため、年間計画の共有や教科と関連した本を紹介する工夫により、継続的かつ幅広い読書活動を推進する必要がある。</p> <p>◆図書ボランティアの負担軽減に向けた仕組みづくりや、児童が自力で資料を探せるよう分類・検索の基本指導を反復する必要がある。</p> <p>◆読書記録が形式的にならないよう、感想の観点を示すなど、読後の振り返りの質を高める手立てが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級間で取組に差が出ないよう、年間計画を共有し継続的に実施する。</li> <li>ボランティアの負担が偏らないよう、活動内容の整理と引き継ぎの仕組みを整える。</li> <li>資料の分類や検索の基本を繰り返し指導し、調べ方の力を高める。</li> <li>読書記録の感想には観点を示し、内容や考えの変化が伝わるよう質を高める。</li> <li>教科と関連した本の紹介などを行い、読書の幅を広げる。</li> </ul>	<p>A 50%</p> <p>B 50%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校司書や図書ボランティアとの連携は評価できません。読書は学力の基盤です。学級による取組の差を埋め、全校で継続的に読書活動を推進していただきたいです。図書ボランティアの負担軽減にも配慮をお願いします。</li> <li>図書館へ入るといつも心地よく整備されており、季節のおすすめの本などしっかりと入れ替えされています。に差が出ないよう年間計画を共有し、調べ学習や読書記録の指導を通して読書習慣の定着を図るとともに、ボランティアの負担にも配慮しながら全校で継続的な読書活動の充実を進めていく。</li> </ul>	<p>学校では、学校司書や図書ボランティアと連携し、図書室の環境整備やおすすめ本の紹介、掲示の工夫などを通して、児童が本に親しめる読書環境づくりを進めている。図書室は心地よく整えられ、読書意欲を高める取組として評価されている。今後は学級間で取組子ども達の読書意欲を高めるよう工夫されていると感じます。</p> <p>・活字離れが言われている中、本に親しませて欲しい。</p> <p>・読まない子に読む習慣や読書の楽しさを味わって欲しい。</p> <p>・図書室前の掲示は立ち止まってみたくなる。</p>
			読書 の 取 組 を 推 進 す る	41.7	45.8	12.5	0	<p>○読書旬間における目標設定や図書委員会によるおすすめ本紹介・読み聞かせを通し、児童の読書量と興味の幅を広げることができた。</p> <p>○教職員の意識的な声かけや学年を超えた読書交流により、校内全体で読書の楽しさを共有する雰囲気醸成できた。</p> <p>◆行事等の影響で活動時間の確保が難しくなるため、計画的な時間設定を行うとともに、旬間以外でも日常的に読書ができる継続的な仕組みづくりが必要である。</p> <p>◆紹介する本が人気ジャンルに偏りやすいため、多様なジャンルに触れられる工夫や、図書室利用が少ない児童への個別の支援・機会づくりが求められる。</p> <p>◆読書目標の達成が目的化しないよう、本の内容をじっくり味わい、感想を共有するなどの振り返り活動を充実させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事予定を踏まえて年間で読書活動の時間を計画的に設定する。</li> <li>読書旬間だけで終わらせず、日常的な読書時間を確保する仕組みを作る。</li> <li>多様なジャンルの本に触れられるよう、テーマ別紹介や学年別おすすめコーナーを設ける。</li> <li>冊数や達成だけでなく、本の内容を味わう振り返り活動を取り入れる。</li> <li>図書室利用が少ない児童にも参加しやすいよう、利用機会の設定や声かけ等の支援を行う。</li> </ul>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書旬間の取り組みは良いですが、成果評価41.7%は改善の余地があります。</li> <li>旬間だけでなく、日常的な読書習慣の定着が重要です。</li> <li>多様なジャンルへの誘導や、読書の質を高める振り返り活動の充実を期待します。</li> </ul>	<p>学校では読書旬間を実施し、児童が本に親しむ機会づくりを進めているが、評価からは取組のさらなる充実が求められている。今後は読書旬間だけでなく、年間を通して読書時間を計画的に確保し、日常的な読書習慣の定着を図る。また、活動内容の発信に努め、読書活動の幅広い認識の定着を図る。</p>
家 庭 ○ 地 域 と の 連 携	地 域 の 教 育 力 を 学 校 教 育 に 生 か す	保 護 者 や 地 域 と 協 力 し て	発 信 に 努 め る	45.8	37.5	8.3	8.3	<p>○学校・学年日より、HP、まなびポケットを併用し、写真等を用いて学校生活や学習内容を分かりやすく家庭に伝えることができた。</p> <p>○デジタルツールの活用により、連絡の即時性が高まるとともに、家庭が状況に応じて情報を確認できる利便性の向上につながった。</p> <p>○電話では連絡がつきにくい家庭とも円滑にやり取りが可能になり、連絡体制の強化が図られた。</p> <p>◆HPの計画的な更新体制を確立するとともに、情報量が多い場合は見出しや箇条書きを用いて、要点が即座に伝わる構成を徹底する必要がある。</p> <p>◆未確認家庭への個別フォローや、連絡の見落としを防ぐためのアカウント運用・確認体制を再整理し、情報の到達率を高める必要がある。</p> <p>◆個人情報・肖像権への配慮と掲載基準の明確化を継続しつつ、発信が一方通行にならないよう双方向のやり取りの工夫が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事予定を踏まえて年間で読書活動の時間を計画的に設定する。</li> <li>読書旬間だけで終わらせず、日常的な読書時間を確保する仕組みを作る。</li> <li>多様なジャンルの本に触れられるよう、テーマ別紹介や学年別おすすめコーナーを設ける。</li> <li>冊数や達成だけでなく、本の内容を味わう振り返り活動を取り入れる。</li> <li>図書室利用が少ない児童にも参加しやすいよう、利用機会の設定や声かけ等の支援を行う。</li> </ul>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校日より等、情報発信に努める。</li> <li>デジタルツールを活用した情報発信は評価できます。ただし、成果評価45.8%は改善が必要です。HPの計画的更新や、未確認家庭へのフォロー体制の強化をお願いします。</li> <li>地域への情報発信も充実させていただけると幸いです。</li> <li>地域には「学校日より」が回覧としてまわってきています。</li> </ul>	<p>学校日よりやホームページ、デジタルツールを活用し、学校の教育活動や行事の様子について保護者や地域への情報発信に努めている。学校よりは地域にも回覧され、学校の様子を知る機会として活用されている。今後はホームページの計画的な更新やデジタルツールの活用をさらに進めるとともに、未確認家庭へのフォロー体制を整え、保護者や地域に対して分かりやすく継続的な情報発信の充実を図っていく。</p>

教育活動を充実させる	保護者からの連絡や相談には丁寧に対応し、迅速に対応	75	25	0	0	<p>○連絡帳・電話・まなびポケット等の使い分けにより、保護者からの相談に迅速に対応し、丁寧な聞き取りを通して安心感を与えることができた。</p> <p>○相談内容を学年や関係職員と組織的に共有・対応することで、トラブルの早期把握や未然防止につなげることができた。</p> <p>◆多忙時でも対応が遅れないよう、受理の見通しを伝える「一次返信」の徹底と、優先順位に基づいた迅速な初期対応体制を整える必要がある。</p> <p>◆複数の連絡経路による抜け漏れを防ぐため、記録・共有方法の統一とともに、報告基準や連携手順を明確にする必要がある。</p> <p>◆個人の対応に偏らず、継続支援が必要なケースの経過観察や定期的な振り返りを行い、学年全体で支援方針を更新・強化していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙時でも、まずは受理と見通しを伝える一次返信をできる限り行う。</li> <li>・対応の優先順位を整理し、迅速に初期対応できる役割分担と手順を決める。</li> <li>・連絡経路ごとの記録方法と共有方法を統一し、対応の抜け漏れを防ぐ。</li> <li>・報告の基準と連携の手順を明確にし、共有のタイミングをそろえる。</li> <li>・継続支援が必要なケースは、経過の見取りと定期的な振り返りを行い、支援方針を更新する。</li> <li>・個人対応に偏らないよう、学年で組織的に対応する体制を維持・強化する。</li> </ul>	<p>A 100%</p> <p>B 0%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価75%は高く評価します。保護者との信頼関係は学校運営の基盤です。迅速で丁寧な対応を継続するとともに、組織的な対応体制の維持・強化を大変かと思っておりますがお願いします。</li> <li>・子どもと担任、保護者と担任、望ましい関係ができていないのではないかと。</li> <li>・先生方は子ども、保護者の話をよく聞き、適切に対応していると思う。</li> <li>・「一次返信」大切だと私も思います。いつもご苦労さまです。</li> </ul>	<p>保護者からの相談や連絡に対して丁寧に話を聞き、迅速に対応することを大切に、児童・保護者との信頼関係づくりに努めている。担任と児童、保護者との望ましい関係が築かれているの声を聞き、取組は概ね評価されている。今後も一次返信を含めた迅速で丁寧な対応を心掛けるとともに、記録や情報共有の方法を整え、学年を中心とした組織的な対応体制を維持・強化しながら、継続的な支援の充実を図っていく。</p>
と小協・中学校で学習の共通の家庭学習を促す	29.2	58.3	8.3	4.2	<p>○小・中学校で共通の趣旨のもと家庭学習強化週間に取り組み、計画表やチェック表の活用により家庭での学習習慣と見通しを持つ意識が高まった。</p> <p>○保護者の協力や声かけにより、宿題の提出や継続的な学習に取り組む児童が増え、家庭と連携した学習習慣の定着につなげることができた。</p> <p>○取組後の振り返りを通して、自身の学習状況や課題に自ら気付く児童の姿が見られた。</p> <p>◆取組が「量の確保」や「宿題の記入」に偏りやすいため、学年に応じた学習の質（復習・見直し）の視点を明確にし、内容の深まりを検討する必要がある。</p> <p>◆家庭環境による差を考慮し、取り組みやすいメニューの提示や保護者の負担軽減に向けた簡潔な支援ポイントの共有など、配慮と工夫が求められる。</p> <p>◆教科担任と学年担任との連携を密にし、課題のねらいを揃えるとともに、強化週間後も目標更新や振り返りを継続させる仕組みを定着させる必要がある。</p> <p>◆個別の学習状況の見取りを丁寧に行い、定着が不十分な児童については家庭とさらに連携を工夫してフォローする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じて、復習・見直し・振り返りの視点を明確にした課題を設定する。</li> <li>・宿題の記入で終わらないよう、内容や学びの深まりを意識した課題内容に見直す。</li> <li>・家庭環境に配慮し、短時間でできるメニューや選択式課題を用意する。</li> <li>・保護者の負担軽減のため、声かけ例や確認ポイントを簡潔に示す。</li> <li>・強化週間後も、週1回の振り返りや目標更新を取り入れ、継続的に取り組む。</li> <li>・算数専科と学年担任で、課題のねらいや内容について事前にすり合わせを行う。</li> <li>・個人差に応じて、気になる児童については家庭と連携し、学習の見取りと支援を工夫する。</li> </ul>	<p>A 25%</p> <p>B 50%</p> <p>C 25%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価29.2%は低く、改善が必要です。小中共通の取り組みは良い試みですが、家庭環境への配慮や学習の質の向上が課題です。家庭と学校が協力して、無理なく継続できる学習習慣づくりを進めていただきたいです。</li> <li>・家庭学習の範疇になり、難しいところがあるが、保護者が子供の生活、学習に関心をもって欲しい。家庭の教育力を高めることは難しい。</li> </ul>	<p>小中共通の取組として家庭学習の定着を図っているが、評価からは改善の必要性を指摘されている。今後は復習や振り返りの視点を明確にした課題内容を取り入れるとともに、短時間で取り組める課題や選択式の課題を取り入れ、家庭環境にも配慮した取組を進めていく。また、保護者への分かりやすい情報提供を行い、家庭と学校が連携しながら、無理なく継続できる学習習慣の定着を図っていく。</p>	
保護者の協力を得ながら、学校行事を実施する	62.5	37.5	0	0	<p>○行事の目的や役割を事前に共有し、準備・片付け・駐車場管理等で保護者の協力を得ることで、円滑な運営と教職員が指導に注力できる環境を実現できた。</p> <p>○保護者の参画が行事への理解と学校への信頼向上につながることも、見守り体制が強化され安全に活動を実施することができた。</p> <p>◆行事参加に不安や負担を感じる児童に対し、個別の状況に応じた柔軟な配慮や参加方法の工夫をさらに検討する必要がある。</p> <p>◆保護者への依頼・連絡が直前にならないよう、早めの周知と複数手段による再案内を徹底し、協力しやすいスケジュール管理に努める必要がある。</p> <p>◆特定の保護者に負担が偏らないよう役割の分散や短時間枠の設定を行うとともに、安全管理や緊急時対応のマニュアル化・事前説明を充実させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事参加に不安や負担を感じる児童への配慮について、事前の聞き取りや個別調整を行う。</li> <li>・連絡は早めに行い、紙・学びポケット等の複数手段で再案内を徹底する。</li> <li>・役割の負担が偏らないよう、担当の分散や短時間参加など参加しやすい形を設定する。</li> <li>・安全管理の手順や緊急時対応について、事前説明を行い、マニュアル化を進める。</li> </ul>	<p>A 50%</p> <p>B 50%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価62.5%は評価できます。保護者の協力を得ながら円滑に行事を運営している点は素晴らしいです。今後も、保護者の負担が偏らないよう配慮しながら、安全で充実した行事運営を期待します。</li> <li>・保護者の協力は難しいところがあると思いますが、PTA等と連携して推進してください。</li> </ul>	<p>保護者の協力を得ながら安全に配慮した行事運営を進めており、円滑な実施につながっている。今後は児童や保護者の状況に配慮し、早めの連絡や複数の方針による案内を行うとともに、役割の分散や参加しやすい形を工夫し、負担が偏らないよう努めていく。また、安全管理の手順や緊急時対応についての共有を進め、PTAとも連携しながら安心して参加できる行事運営の充実を図っていく。</p>	
習青梅市の充実を図る	37.5	45.8	8.3	8.3	<p>○御岳移動教室や出張講座、社会科見学等を通して、地域の良さを実感し、青梅への理解を深める学習を展開することができた。</p> <p>○地域人材やサポーターを積極的に活用し、多くの大人が関わる温かい協力体制のもとで、教育活動を充実させることができた。</p> <p>◆学年によって取組の実施状況に差があるため、地域人材の活用方法や具体的な内容を整理し、学校全体で共有・計画化していく必要がある。</p> <p>◆地域人材や外部事業に関する情報を校内で一元化し、次年度以降も継続して活用できる仕組みづくりが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの取組状況を整理し、活用の方向性と具体的な取組内容を明確にする。</li> <li>・地域人材や事業の情報を校内で共有し、年間計画に位置付けて計画的に活用する。</li> </ul>	<p>A 80%</p> <p>B 20%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材の活用は評価しますが、成果評価37.5%は改善の余地があります。御岳移動教室など良い取り組みがある一方、学年による差が課題です。地域としても協力したいので、学校運営協議会等を通じて計画的な連携を進めましょう。</li> <li>・年間計画を見ると御岳移動教室や社会科見学でふるさと青梅を知る学習が多く計画されている様子が分かります。ルーツを知る学習はアイデンティティーの形成に役立つ。その後の人生を支えていくものになると思いますが、ぜひ積極的に展開していただきたいと思います。</li> <li>・コミュニティスクールの授業支援を活用いただきたい。</li> <li>・年間計画に位置付けてと更によい。</li> </ul>	<p>御岳移動教室や3年生の市内巡りなどを通して地域を知る学習を進め、ふるさとへの理解を深める教育活動に取り組んでいる。地域人材の協力も得ながら学習を進めているが、学年による取組の差が課題となっている。今後は地域人材や事業の情報を校内で共有し、年間計画に位置付けて計画的に活用するとともに、学校運営協議会等とも連携しながら、地域の教育力を生かした学習活動の充実を図っていく。</p>	

その他の重点	安心・安全な学校づくり	安心できる学校生活	58.3	33.3	8.3	0	<p>○定期的なカウンセリングや情報共有を通してSCとの連携を深め、児童の実態把握や多角的な視点での支援につなげることができた。</p> <p>○対応が困難なケースについても、学年内や関係職員、SCと連携して方針を確認し、校内での適切な見守りや声かけを実施できた。</p> <p>○保護者との密な連絡により家庭での様子を把握し、必要に応じて専門的な相談や外部機関の支援へつなげる意識を高めることができた。</p> <p>◆気になる児童の早期発見・早期共有を徹底するため、相談機会の確保や定期的なケース検討を行う体制をより強固にする必要がある。</p> <p>◆支援の経過や記録の管理を徹底し、関係者間で情報の齟齬（そご）がないよう、引き継ぎや情報共有の仕組みを整理する必要がある。</p> <p>◆外部機関との連携手順や校内相談窓口を明確化し、ケース会議の実施など、より具体的かつ迅速な組織的対応が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる児童については早期に情報共有し、定期的に相談できる体制を整える。</li> <li>・校内の相談窓口と手順を明確にして活用を促す。</li> </ul>	<p>A 80%</p> <p>B 20%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価58.3%は一定の評価ができます。専門機関との連携は重要です。早期発見・早期対応の体制強化と、情報共有の仕組み整備を継続していただきたいです。</li> <li>・年に4回いじめについてのアンケートを行い、心配なお子さんについてはスクールカウンセラーらと連携しフォローしているというお話で、安心して学べる環境が整えられていると感じました。</li> <li>・情報共有、連携の難しさはあると思いますが、とても重要な部分だと思っておりますので、ご協力をお願いします。</li> <li>・安心して学べる環境を整える。</li> </ul>	<p>いじめアンケートの実施やスクールカウンセラー等の専門機関と連携しながら、児童の様子を把握し、安心して学べる環境づくりに努めています。相談内容の共有や支援を通して早期対応を図っており、取組の成果も見られています。今後は学年ごとの取組状況を整理するとともに、専門機関や地域の支援資源に関する情報を校内で共有し、計画的に活用することで、早期発見・早期対応の体制をさらに充実させていく。</p>
	規範意識の育成	集団生活のルールやマナー等 社会性が身に付くよう	62.5	37.5	0	0	<p>○学級の約束や基本のマナー（挨拶・聞き方等）を学級活動で具体的に指導し、場面に応じて相手を意識した落ち着いた行動が増えた。</p> <p>○当番や係活動を通して児童の役割意識を醸成し、互いに協力してより良い学級生活をつくろうとする姿が見られた。</p> <p>○トラブル時に話し合いの場を設け、相手の気持ちを尊重した解決方法を模索することで、社会的な態度の育成につなげることができた。</p> <p>○学年や関係教職員が連携し、人としての立ち振る舞いや礼儀について一貫性のある指導を継続することができた。</p> <p>◆理解が行動に結びつきにくい児童に対し、叱責ではなく「できた姿」を認める肯定的な指導を重ね、定着を図る必要がある。</p> <p>◆役割の偏りや形骸化を防ぐため、分担の再考や適宜フォローを行うとともに、ルールの共通理解を学校全体で図る必要がある。</p> <p>◆感情のコントロールが難しい児童への具体的な感情整理の仕方や、適切な自己主張の表現方法を継続して指導することが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面で繰り返し指導し、望ましい行動の定着を図る。</li> <li>・叱責に偏らないよう、できている姿を取り上げて認める指導を増やす。</li> <li>・役割分担を見直し、任せきりにならないようフォロー体制を整える。</li> <li>・感情が先行する児童には、気持ちの整理の仕方や適切な伝え方を具体的に指導する。</li> <li>・学級間での共通理解を図りつつ、状況に応じた声かけを継続する。</li> </ul>	<p>A 100%</p> <p>B 0%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価62.5%は評価できます。社会性の育成は学校教育の重要な役割です。今後も、肯定的な指導を継続し、全ての児童の成長を支えていただきたいです。</li> <li>・ルール、マナーは身につけている児童が多いのではないかと。</li> </ul>	<p>日常生活指導を通してルールやマナーの定着を図り、児童の社会性を育てる取組を進めている。多くの児童が落ち着いて生活できている様子が見られ、一定の成果が表れている。今後も具体的な場面で繰り返し指導するとともに、できている姿を認める肯定的な声かけを大切に、気持ちの伝え方についても継続して指導しながら、学級間で共通理解を図り、児童一人一人の成長を支えていく。</p>
	感染症の予防	毎朝の健康観察、手洗いの徹底を行うの励行、給食配膳	62.5	37.5	0	0	<p>○毎朝の健康観察や手洗い・うがいの呼びかけを継続し、児童の体調変化の早期把握と基本的な衛生習慣の定着を図ることができた。</p> <p>○給食時の消毒や教室の換気・環境整備を徹底し、安全・安心に過ごせる学習環境づくりを組織的に進めることができた。</p> <p>○休み時間の声かけや衛生備品の管理を通して、児童自らが自身の健康管理や衛生面に意識を向ける習慣を養うことができた。</p> <p>◆ハンカチの常時携帯や体調の適切な申告など、一部で定着が不十分な事項について、具体的な場面に応じた丁寧な指導を継続する必要がある。</p> <p>◆衛生管理の手順が形骸化しないよう、実施タイミングの明確化や役割ごとの再確認を行い、常に高い意識で取り組めるよう見守りを強化する必要がある。</p> <p>◆体調不良者発生時の対応手順を改めて学年・学校全体で共有し、いかなる場面でも迅速かつ組織的に対応できる体制を維持・更新していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンカチの常時携帯について、日常の声かけと確認を継続して定着を図る。</li> <li>・体調の申告が曖昧にならないよう、観察項目を確認し、適切な言葉かけて正確な把握につなげる。</li> <li>・実施のタイミングを明確にし、場面に応じた見守りと指導を継続する。</li> <li>・手順が形骸化しないよう、役割ごとの確認と定期的な振り返りを行う。</li> <li>・体調不良者が出た際の対応手順を再確認し、学年内で共有して迅速に対応できる体制を整える。</li> </ul>	<p>A 100%</p> <p>B 0%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価62.5%は評価します。毎朝の健康観察や衛生管理の徹底により、安全な学習環境が保たれています。今後もハンカチの携帯や体調の申告について継続して声かけを行うとともに、観察の視点や対応手順を学年で共有し、形骸化を防ぎながら組織的に健康管理と安全な学校生活の維持に取り組んでいく。</li> </ul>	<p>毎朝の健康観察や衛生管理を通して、児童が安心して学習できる環境づくりに努めています。手洗い・うがいなどの基本的な生活習慣についても日常的に指導を行い、健康管理への意識を高めている。今後もハンカチの携帯や体調の申告について継続して声かけを行うとともに、観察の視点や対応手順を学年で共有し、形骸化を防ぎながら組織的に健康管理と安全な学校生活の維持に取り組んでいく。</p>
	安全指導の充実	災害や犯罪から身を守るための指導を計画的に実施	58.3	41.7	0	0	<p>○避難訓練や日常の安全指導を通し、「お・か・し・も」等の約束や避難経路への理解を深め、災害時に落ち着いて行動する意識を向上させることができた。</p> <p>○不審者対応や登下校時の防犯、校内での安全な過ごし方について継続的に啓発し、危険を予測して回避しようとする態度の育成につなげられた。</p> <p>○授業前後等のわずかな時間を活用して安全点検や声かけを徹底し、事故や怪我の未然防止に向けた意識付けを図ることができた。</p> <p>◆訓練の形骸化を防ぐため、想定を変えた実践的な訓練の実施や事後指導を充実させるとともに、教室外や休み時間等の多様な場面を想定した確認を繰り返す必要がある。</p> <p>◆施設の徹底や侵入防止対策などの施設面の安全点検を強化し、不審者対応における組織的な初動体制の改善・検討を継続する必要がある。</p> <p>◆児童の理解度に応じたロールプレイ等の具体的な指導を取り入れるとともに、家庭・地域と通学路の危険箇所等の情報を共有し、学校外での安全確保にも努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内の施設や侵入防止対策について点検を行い、施設面の改善を進める。</li> <li>・訓練が形骸化しないよう、想定を変えた訓練を行い、事前・事後の振り返りを充実させる。</li> <li>・教室外での動きについても、実際の場面を想定して繰り返し確認・指導する。</li> <li>・理解に差のある児童にも伝わるよう、ロールプレイ等を取り入れた具体的な指導を行う。</li> <li>・家庭や地域と連携し、通学路や地域の危険箇所の情報共有を継続する。</li> </ul>	<p>A 50%</p> <p>B 50%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価58.3%は一定の評価ができます。避難訓練等の計画的実施は重要です。ただし、訓練の形骸化防止や、実践的な内容への改善が必要です。ご提案した避難所ゲームなど地域とも連携し、災害に強い街づくりを共に取り組みたいと思います。</li> <li>・大きな校舎にたくさん子ども達があり、避難訓練や安全指導は大変だと思いますが、災害から子ども達を守る為に大切な事だと思います。学校に不審者があらわれたという事件も耳にしますので、計画的に備えていってほしいと思います。</li> <li>・CAPの学習を見せていただいた。</li> </ul>	<p>避難訓練や安全指導を計画的に実施し、児童が災害や不審者等から自分の身を守る力を身に付けられるよう取り組んでいる。本年度はCAPの学習などを通して安全意識を高める取組も進められた。今後は訓練が形骸化しないよう想定を工夫した実践的な訓練や振り返りを充実させるとともに、施設面の安全点検や通学路の情報共有を進め、家庭や地域とも連携しながら安全な学校づくりを継続していく。</p>

教職員の働き方改革	校務改善の推進	校務改善に移す	29.2	58.3	8.3	4.2	<p>○改善すべき点について、反省や振り返りの場で共有し、改善に向けた意識付けを行うことができた。</p> <p>◆日常的な細かな課題については十分に共有できていないため、意見を拾い上げる仕組みづくりが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省や振り返りの場で出た改善点を継続的に共有し、具体的な改善行動につなげる。</li> <li>・日常的な細かな課題も拾えるよう、意見箱や定例ミニ共有の時間など、意見を集める仕組みを整える。</li> </ul>	<p>A 25%</p> <p>B 50%</p> <p>C 25%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価29.2%は低く、改善が急務です。教職員の働き方改革は、教育の質向上にも直結します。</li> <li>・意見を集約する仕組みづくりと、具体的な改善策の実行を強く期待します。</li> </ul>	<p>教育活動の振り返りを行いながら改善に努めているが、成果評価からは取組の強化が求められている。今後は反省や振り返りで出た課題を共有し、具体的な改善行動につなげていく。また、日常的な課題も把握できるように意見を集約する仕組みや共有の機会を整え、教職員が働きやすい環境づくりを進めることで、教育の質の向上につなげていく。</p>
	メンタルヘルス対策	一人で抱えず複数の教職員で対応する。	58.3	37.5	4.2	0	<p>○相談しやすい職場環境づくりや校務課題の可視化に努め、会議資料の簡素化や連絡方法の整理など、実行可能な範囲から着実に業務改善を進めることができた。</p> <p>○役割分担の明確化やデジタル活用の推進により、業務の重複・漏れの削減と情報共有の効率化を図るとともに、困難なケースに組織的に対応する体制を構築できた。</p> <p>◆一部の意見に偏らず全員の声を吸い上げる仕組みづくりを行うとともに、業務改善を単発で終わらせず、実施・検証・再改善のサイクルを組織に定着させる必要がある。</p> <p>◆属人化している業務のマニュアル化や共有フォルダの整備を進めるとともに、ICTスキルの個人差をフォローする研修・サポート体制を整え、全体の平準化を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等を活用し、全員の意見を定期的に収集する仕組みを整える。</li> <li>・改善が継続するよう、実施・検証・再改善のサイクルを業務に定着させる。</li> <li>・属人化している業務について、マニュアル化や共有フォルダ整備を進め、引き継ぎの仕組みを作る。</li> <li>・操作スキルや環境差に対応するため、研修やサポート体制を整え、全体で活用できる状態にする。</li> </ul>	<p>A 60%</p> <p>B 40%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果評価58.3%は一定の評価ができます。教職員が健康で働ける環境づくりは重要です。組織的な対応体制の構築は評価できますが、業務改善のサイクル定着や、ICTスキルの平準化など、継続的な取り組みを期待します。</li> <li>・意見を集約する仕組みづくりと、具体的な改善策の実行を強く期待します。</li> </ul>	<p>教職員が働きやすい環境づくりに向けて業務の見直しや情報共有を進め、組織的に対応する体制づくりに取り組んでいる。今後はアンケート等を活用して意見を定期的に収集し、実施・検証・再改善のサイクルを業務に定着させていく。また、業務のマニュアル化や共有フォルダの整備を進めるとともに、ICT活用に関する研修やサポート体制を充実させ、教職員全体で継続的な業務改善を図っていく。</p>